

停年退官教官を囲んでの記念撮影

平成12年3月に退官される、石原正泰教授（物理学専攻）、益田隆司教授（情報科学専攻）、釜江常好教授（物理学専攻）、米倉伸之教授（地理学専攻）、山岬正紀教授（地球惑星物理学専攻）、神部 勉教授（物理学専攻）を囲み理学部1号館正面玄関において理学系研究科・理学部教授会構成員と恒例の記念撮影を行なった。



東京大学理学部教授会・平成12年3月15日於：理学部1号館前

理学系研究科長（理学部長）と理学部職員組合との交渉

2000年2月21日、3月27日、4月24日に小間研究科長、植田事務長と理学部職員組合（理職）との間で定例研究科長交渉が行われた。主な内容は以下のとおりである。

1. 昇格改善等

事務職員

2、3、4月の交渉で理職は、事務主任の6級昇格について、早期実現を訴えた。2月の交渉で理職は、文部省が昨年から大学に退職2年前の掛長の6級定数を配布するようになり、東大当局もその方針であり、該当者は来年度で退職2年前になることから、理学部でも早期に実施してほしいと要望したが、事務長は理学部には具体的な情報はきていないが努力したいと述べた。4月の交渉で事務長は新しい人事課長にも会って要望してきたと述べた。

技術職員

3月の交渉で理職は2000年度の技術専門官、技術専門職員の発令状況について尋ね、事務長は技術専門職員はゼロ、技術専門官はまだきていないと答えた。（その後、技術専門官もゼロであることがわかった。）同じく1999年度の7級、8級についても理職は要望してきたが、2月交渉で事務長は7級、8級とも発令はゼロであったと答えた。理職はこれまで理学部の技術職員は退職2年前には7級になっており、引き続きの取り組みを訴えた。

図書職員

2月の交渉で理職は、2000年4月には文部省の5級昇格選考基準を完全に満たす職員について、部局からの推薦を確実にしてほしいと要求し、事務長は了解していると述べた。

2. 特別昇給について

4月の交渉で理職は、一般職員の特別昇給についてスケジュール、人事委員会の確認事項の再確認を求めた。事務長は、例年通り5月中旬に各専攻より推薦してもらい、6月の人事委員会で推薦者を決定する予定であると答え、人事委員会の確認事項は、平成5年9月3日以降の変更はない、また、定年1年度前および定年時の特別昇給の扱いも従来通りであり、63才定年の行（二）職員についても同様であると述べた。

3. 介護保険について

4月の交渉で理職は、4月から介護掛金が徴収されたが、先日配布された文部共済広報号外より詳しい情報が

あれば伺いたいと述べたが、事務長は特にないと答えた。

4. 勤勉手当について

4月の交渉で理職は勤勉手当の差別支給が2年前の6月期から始まり、今年から2巡目に入るが、職員は2年に1回0.7の率で変更はないかを尋ね、事務長は従来通りであると述べた。

5. 独立行政法人化問題について

2月の交渉で理職は独立行政法人化について経過を尋ねた。科長は、2月16日に科学技術政策を考える超党派の国会議員の勉強会で、独立行政法人と大学のあり方について話をし、高等教育は長い将来にわたる人材育成の問題であり、国の保険にあたることを強調したと述べた。さらに、現在の科研費の審査やポスト制度などについても意見を聞かれたが、少なくとも通則法による独立行政法人化では駄目だと分かっただけだと思つたと述べた。理職は、組合の学習会での国公労連の人の話として、先行して独立行政法人化される国立の研究機関等において業務が複雑化している例を紹介し、独立行政法人化推進の理由と実態との矛盾を指摘した。

3月の交渉で理職は、独立行政法人化問題に関する自民党研究班の提言は、依然として通則法に大きく縛られた内容になっている等、根本的批判が必要であるが、最近釜江先生らが中心になってまとめられた文書は大変具体的な現状分析がされており、的確な問題提起になっているので、できるだけ早く公表してほしいと要求した。科長は、その文書は、有馬前文相からの依頼により、将来計画委員会と他大学の理系のグループでまとめたものであるが、いずれは公表していくべきであろうと答えた。理職は東大が国立大学制度研究会を設置するようだが何を検討するのかを尋ねた。科長は法律的な面を含めて考えていこうとするものであり、学部長会議に中間報告が出された時に意見を出していきたいと答えた。また、「釜江文書」は制度研究会に渡すと述べた。

4月の交渉で理職は独立行政法人化問題のその後の状況を探ねた。科長は、予期せぬ政権交代、選挙がらみの政局などにより、文部省としても決断しにくい状況ではないかと述べた。また、東大の大学制度研究会は週一回のペースで5月末までヒアリングをおこない、6月末には中間報告が出され、検討結果は内外に明らかにされるだろうとの見通しを述べた。さらに「釜江文書」は先日両副学長に提出したと述べた。理職は、自民党麻生グループの報告書のなかに、大学院重点化を一層進めるとい

文言が入っているが、オーバーポスドク問題の深刻化等、重点化がひずみを生んでいるのも事実であり、大学院生の卒業後の進路についての追跡調査が必要ではないかと提案した。科長は、大変深刻な問題で、全国理学部長会議でも、前々回の会議以降、オーバードクターやオーバーポスドクの授業料免除の問題とからめて議論になっていると述べた。理職は機会があれば追跡調査を検討してほしいと要望した。

6. 定員削減問題について

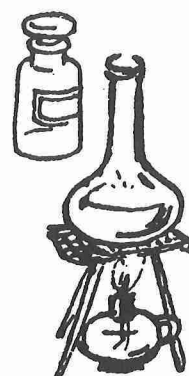
2月の交渉で理職は、定年を迎える技術職員が定員削減要員に使われ続けると10年後には技術職員が半減してしまう事実について、その後人事委員会に検討を依頼したか尋ねた。科長は2月の教授会でも報告したが、来年度以降考慮し、機械的に定年者を当てることはしない、この件は教授会議事録にも載せる、と答えた。

7. その他

2月の交渉で理職は、来年度は事務の集中処理とか統合事務に関して動きはないかを尋ね、事務長は理学部関係ではないと答えた。

3月の交渉で理職は、職員の再任用について情報があるか尋ね、事務長は人事院のホームページ以上の詳しいことはわからない、事務長会議等で問うてみると答えた。

4月の交渉で理職は、来年度の概算要求で事務関係で出したものについて尋ね、科長は情報学環等を念頭において、合同事務部の少し大きな事務部を要求したと答えた。



人事異動報告

(講師以上)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
情 報	教 授	益 田 隆 司	12. 3. 31	停年退官	
物 理	〃	釜 江 常 好	〃	〃	
〃	〃	石 原 正 泰	〃	〃	
〃	〃	神 部 勉	〃	〃	
地 惑	〃	山 岬 正 紀	〃	〃	
地 理	〃	米 倉 伸 之	〃	〃	
原 子 核	助教授	志 田 嘉次郎	〃	〃	
鉱 物	講 師	小 澤 徹	〃	〃	
物 理	〃	Bentz Wolfgang Herrmann	〃	辞 職	
原 子 核	〃	丸 山 浩 一	〃	〃	
物 理	教 授	初 田 哲 男	12. 4. 1	昇 任	京都大学助教授より
〃	〃	佐 野 雅 己	〃	〃	東北大学助教授より
地 惑	〃	日比谷 紀 之	〃	〃	助教授より
原 子 核	〃	片 山 一 郎	〃	転 任	高エネルギー加速器研究機構教授へ
地 惑	〃	小 澤 一 仁	〃	〃	岡山大学教授より
情 報	〃	米 澤 明 憲	〃	配 置 換	情報学環教授へ
物 理	助教授	小 形 正 男	〃	〃	総合文化研究科より
〃	〃	櫻 井 博 儀	〃	採 用	
生 化	講 師	武 藤 裕	12. 4. 18	研究休職	12.4.18～13.2.17
物 理	助教授	岡 本 徹	12. 5. 1	採 用	
原 子 核	教 授	下 浦 亨	12. 5. 16	〃	
地 惑	助教授	中 村 尚	〃	昇 任	助手より

(助 手)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	助 手	水 谷 淳	12. 3. 1	採 用	
物 理	〃	白 水 徹 也	〃	休職更新	12.3.1～12.8.31
植 物 園	〃	彦 坂 寿 江	12. 2. 16	採 用	
生 科	〃	佐 藤 恵 春	12. 2. 29	辞 職	
地 殻	〃	角 森 史 昭	12. 3. 16	転 任	東京農工大学助手より
原 子 核	〃	藤 田 宗 孝	12. 3. 31	停年退官	
物 理	〃	水 崎 高 浩	〃	辞 職	
生 化	〃	今 井 義 幸	〃	〃	

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
生 科	助 手	古 本 強	12. 3. 31	辞 職	
天 文	セ	吉 田 重 臣	〃	〃	
物 理	〃	山 田 篤 志	12. 4. 1	昇 任	千葉大学助教授へ
〃	〃	深 沢 泰 司	〃	〃	広島大学助教授へ
〃	〃	中 村 隆 司	〃	〃	東京工業大学助教授へ
化 学	〃	櫻 井 英 博	〃	〃	大阪大学講師へ
情 報	〃	田 浦 健次朗	〃	配 置 換	情報学環助手へ
物 理	〃	望 月 義 典	〃	採 用	
〃	〃	板 垣 直 之	〃	〃	
〃	〃	峯 本 紳一郎	〃	〃	
〃	〃	佐 貫 智 行	〃	〃	
化 学	〃	山 根 基	〃	〃	
〃	〃	佐 藤 守 俊	〃	〃	
生 化	〃	辛 島 健	〃	〃	
原 子 核	〃	寺 西 高	〃	〃	
生 科	〃	伊 藤 正 樹	〃	復 職	
物 理	〃	松 原 隆 彦	〃	休職更新	11.4.1～12.8.31
天 文	セ	片 座 宏 一	12. 4. 16	昇 任	宇宙科学研究所助教授へ
生 科	〃	井 上 裕 一	〃	採 用	

(併 任)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
物 理	助教授	小 形 正 男	12. 3. 31	併任任期满了	
〃	教 授	佐 藤 勝 彦	12. 4. 1	評議員 併任	
臨 海	〃	森 澤 正 昭	〃	臨海実験所長 併任	
天 文	セ	吉 井 讓	〃	天文学教育研究センター長 併任	
物 理	〃	酒 井 英 行	〃	原子核科学研究センター長 併任	

(流動講座)

情 報	助教授	安 藤 秀 樹	〃	併 任	本務：名古屋大学
物 理	教 授	畑 中 吉 治	〃	〃	本務：大阪大学
〃	助教授	岩 佐 義 宏	〃	〃	本務：北陸先端科学技術大学院大学
天 文	教 授	安 藤 裕 康	〃	〃	本務：国立天文台
〃	〃	中 井 直 正	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	常 田 佐 久	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	井 上 允	〃	〃	本務： 〃

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
天 文	助 教 授	山 下 卓 也	12. 4. 1	併 任	本務：国立天文台
地 惑	教 授	北 里 洋	〃	〃	本務：静岡大学
〃	〃	大 隅 一 政	〃	〃	本務：高エネルギー加速器研究機構
〃	〃	砂 村 繼 夫	〃	〃	本務：大阪大学
〃	助 教 授	齋 藤 義 文	〃	〃	本務：宇宙科学研究所
化 学	教 授	渡 部 徳 子	〃	〃	本務：東京水産大学
生 科	〃	濱 口 幸 久	〃	〃	本務：東京工業大学
〃	〃	近 藤 孝 男	〃	〃	本務：名古屋大学
〃	〃	武 田 正 倫	〃	連携併任	本務：国立科学博物館
〃	〃	柏 谷 博 之	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	馬 場 悠 男	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	藤 島 政 博	〃	〃	本務：山口大学
〃	〃	日 詰 雅 博	〃	〃	本務：愛媛大学
〃	〃	山 根 正 氣	〃	〃	本務：鹿児島大学
〃	〃	長谷川 政 美	〃	〃	本務：統計数理研究所
〃	助 教 授	松 浦 啓 一	〃	〃	本務：国立科学博物館
〃	〃	樋 口 正 信	〃	〃	本務： 〃
〃	〃	加 瀬 友 喜	〃	〃	本務： 〃
〃	客員教授	鈴 木 隆 雄	〃	併 任	本務：東京都老人総合研究所
〃	客員助教授	丸 田 恵美子	〃	〃	本務：東邦大学
原 子 核	客員教授	本 林 透	〃	〃	本務：立教大学
〃	客員助教授	中 川 孝 秀	〃	〃	本務：理化学研究所
物 理	客員教授	谷 畑 勇 夫	12. 5. 1	連携併任	本務： 〃
〃	〃	後 藤 彰	〃	〃	本務： 〃

(職 員)

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
生 科	事務主任	鈴 木 美和子	12. 3. 31	定年退職	
事 務 部	事務長補佐 (経理担当)	羽 田 勇 雄	12. 4. 1	配 置 換	研究協力部研究協力課課長補佐へ
〃	専 門 員	伊 藤 邦 範	〃	〃	教養学部等教務課課長補佐へ
〃	庶務主任	大 井 哲	〃	〃	海洋研究所総務課庶務主任へ
〃	専門職員	野 口 宏	〃	〃	農学部・農学生命科学研究科総務課専門職員へ
〃	施設掛長	長 野 國 明	〃	〃	農学部・農学生命科学研究科経理課施設掛長へ
〃	共同利用 掛 主 任	塩 野 隆	〃	〃	教養学部等学生課厚生掛主任へ

所 属	官 職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
化 学	事務室主任	新 藤 美 子	12. 4. 1	配 置 換	工学系研究科等航空宇宙工学専攻総務掛教務主任へ
臨 海	〃	矢 崎 力 太	〃	〃	工学系研究科等教務課大学院掛主任へ
事 務 部	事務官	池 田 孝 子	〃	〃	医科学研究所管理課人事掛へ
〃	〃	村 山 悟	〃	〃	社会科学研究所研究協力掛へ
〃	〃	藤 井 真 嗣	〃	〃	総務部人事課へ（併）文部省生涯学習局
物 理	〃	小野瀬 英 寿	〃	〃	農学部附属牧場へ
化 学	〃	石 川 瑞 穂	〃	〃	教養学部等図書課総務掛へ
事 務 部	事務長補佐 （経理担当）	沼 尾 正 一	〃	〃	医学部附属病院医事課課長補佐より
〃	専 門 員	金 子 博	〃	〃	教養学部等教務課専門課程総務主任より
〃	専門員（学環・ 学府担当）	松 本 直 衛	〃	〃	工学系研究科等学術協力共同利用掛主任より
〃	庶務主任	館 野 照 政	〃	〃	農学部・農学生命科学研究科総務課専門職員より
〃	学環・学府総務主任 （併：学環総務掛長）	松 本 寿 雄	〃	〃	社会情報研究所総務主任より
〃	専門職員	武 田 豊	〃	〃	教育学部厚生掛長より
〃	施設掛長	利根川 伸 一	〃	〃	医学部附属病院管理課電気掛長より
生 科	事務主任	吉 原 珠 恵	〃	〃	教養学部等総務課数理学総務掛長より
事 務 部	学環・学府 総務掛主任	山 本 泰 成	〃	〃	施設部企画課企画掛主任より
〃	〃	篠 田 正 人	〃	〃	総務部学務課企画調査掛主任より
物 理	事務室主任	熊 崎 丈 晴	〃	〃	放送大学修学・卒業判定係主任より
化 学	〃	山 崎 由 子	〃	〃	教養学部等総務課教室事務掛主任より
天 文 セ	〃	横 山 弘 光	〃	〃	臨海実験所事務室主任へ
物 理	〃	中 丸 典 子	〃	昇 任	
天 文 セ	〃	谷内田 浩	〃	〃	医学部附属病院管理課用度第二掛より
事 務 部	事務官	塚 本 晶 子	〃	配 置 換	東洋文化研究所より
〃	〃	小 川 隆 浩	〃	〃	経理掛より研究協力掛へ
〃	〃	村 石 昌 昭	〃	〃	学位授与機構学務課学修審査2係長より
〃	〃	平 野 智 己	〃	〃	用度掛より経理掛へ
〃	〃	田 部 久仁生	〃	〃	学術情報センター会計課経理係より
〃	〃	石 田 さ よ	〃	〃	文部省学術国際局国際学術国際研究集会係より
化 学	〃	守 屋 文 葉	〃	〃	薬学部庶務掛より
生 科	技術専門職員	大 崎 敏 子	〃	〃	鉱物学専攻・地学科より

博士（理学）学位授与者

平成12年2月21日付学位授与者（4名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	天 文 学	森 野 潤 一	近傍分子雲の $\text{Co}(J=2-1)/\text{Co}(J=1-0)$ の輝線強度比と星型成
〃	生物化学	奥 田 隆 志	高親和性コリントランスポーターの同定
〃	地 質 学	更 科 功	ホタテガイにおける殻内基質中の可溶性タンパク質の一次構造
論文博士	地 理 学	朴 倬 玄	韓日間の国際的都市システムに関する地理学的研究

平成12年2月29日付学位授与者（1名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	地 質 学	原 口 悟	リアナ孤（九州パラオ海嶺と伊豆小笠原・マリアナ孤前孤域）の初期島孤性及びリフト性火成活動

平成12年3月10日付学位授与者（12名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	生物化学	康 丞 雨	TFIIE 相互作用因子として単離した細胞周期因子 CDC68 の機能解析
〃	生物科学	五十嵐 恵	ヒャクニチソウ TED3 遺伝子の発現制御機構の解析
〃	地 理 学	安 形 康	成層火山体の地形発達と湧水湧出プロセスの変化過程
論文博士	情報科学	中 谷 明 弘	関連した遺伝子要素の解析に向けた並列データマイニング
〃	物 理 学	田 村 了	平面グラファイト中、および炭素ナノチューブ中の回位の電子状態
〃	地球惑星物理学	伊 藤 孝 士	惑星系および原始惑星系の安定性と不安定性
〃	〃	吉 川 一 朗	極端紫外線望遠鏡を用いた地球近傍低温ヘリウムイオンの撮像に関する研究
〃	〃	川 島 正 行	スコールライン型対流システムの周期的変動に関する数値的研究
〃	化 学	袁 友 珠	金ホスフィン錯体およびクラスターを用いて調整される新規担持金触媒のキャラクタリゼーションと触媒性能
〃	鉱 物 学	末 次 寧	水銀アパタイトと炭酸アパタイトの結晶育成と構造解析
〃	地 理 学	川 口 太 郎	大都市圏の構造変化と郊外の生活空間
〃	〃	江 崎 雄 治	人口還流現象に関する地理学的研究

平成12年3月29日付学位授与者（153名）

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	情報科学	定 兼 邦 彦	文書検索と圧縮の統合ー接尾辞ソート、ブロックソート法、接尾辞配列ー

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	物 理 学	谷 田 聖	^7Li ハイパー核の γ 線分光
〃	情報科学	五十嵐 淳	先進的なクラス機構の形式化
〃	〃	幸 村 琢	筋骨格系モデルを用いた人体動作の生成・変形
〃	〃	田 島 玲	整数計画法による三角形分割の最適化
〃	〃	田 中 清 史	軽量ハードウェアによる分散共有メモリの研究
〃	〃	丹 羽 純 平	ソフトウェア DSM を支援する最適化コンパイラに関する研究
〃	〃	野 畑 周	情報抽出システムのための知識獲得
〃	物 理 学	伊 藤 一 仁	軌道縮退を持つ強相関電子系の研究
〃	〃	川 島 洋 徳	超流動ヘリウム薄膜の第 3 音波を用いた弱局在の研究
〃	〃	越 野 和 樹	電子相関による光誘起協力現象の理論
〃	〃	関 野 恭 弘	大 N 極限における行列理論と超重力理論
〃	〃	中 村 崇 宏	重力レンズ理論の波動光学的観点とその重力波天文学への応用
〃	〃	ドゥオラ スミタ	CHS における多層膜反射鏡を用いた軟 X 線分光計測
〃	〃	安 部 淳 一	高速発光ダイオードを用いた広帯域サブボアソン光の発生
〃	〃	有 田 亮太郎	ハバード模型における強磁性と超伝導—格子構造との相関
〃	〃	井 出 剛	強相関電子系の共鳴 X 線発光スペクトルにおける非局所効果の理論的研究
〃	〃	内 山 隆	重力波レーザー干渉計用低温鏡の研究
〃	〃	宇都野 穰	$N = 20$ 近辺の不安定核の構造
〃	〃	大 石 奈緒子	機械コンダクタンスの直接測定による熱雑音の推定
〃	〃	大 西 哲 哉	($d, ^2\text{He}$) 反応による中性子過剰核のスピン・アイソスピン励起の研究
〃	〃	大 橋 政 司	Tm モノカルコゲナイドにおける圧力誘起転移相の物性研究
〃	〃	大 平 聖 子	ミュオンスピン回転・緩和・共鳴法による有機ラジカル TEMPO 誘導体の磁性研究
〃	〃	岡 本 淳	Ru 酸化物の光電子分光及び磁気円二色性による研究
〃	〃	小 暮 兼 三	有限温度場の理論における補助質量の方法
〃	〃	小 澤 秀 樹	「あすか」を用いた原始星からの X 線放射の研究
〃	〃	片 岡 淳	X 線を用いた TeV ガンマ線放射ブレイザーの速い時間変動の研究およびジェット内部での粒子加速への示唆
〃	〃	加 藤 真由美	空間変調磁場下の GaAs/AlGaAs ヘテロ界面 2 次元電子系における電子輸送
〃	〃	鎌 倉 望	スピン分解光電子分光による Fe 薄膜の磁性と電子状態の研究
〃	〃	北 尾 拓 洋	プレーン上で表現された 3 次元の超対称マクスウェル—チャーニー—サイモン理論
〃	〃	郡 和 範	宇宙初期におけるハドロン放出と元素合成
〃	〃	小 森 靖	一次元量子多体系の代数的解析
〃	〃	齋 藤 雅 子	乱れたスピンパイエルス系の磁氣的性質
〃	〃	笹 本 智 弘	一次元非対称拡散模型の厳密な解析
〃	〃	塩 川 教 次	高 Q 値光微小共振器による単一原子の観測と運動制御
〃	〃	白 木 一 郎	マイクロおよびナノ 4 端子プローブ法による局所表面電気伝導の研究
〃	〃	妹 尾 仁 嗣	有機導体 (ET) $_2$ X における電荷整列

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	物 理 学	関 口 武 治	アルカリ土類金属原子が吸着したシリコン表面の構造と電子状態
〃	〃	谷 田 義 明	Si(001) 面上のアセチレン吸着層の温度依存構造の理論的研究
〃	〃	土 田 隆 之	逆散乱法による多成分ソリトン方程式の研究
〃	〃	長 野 重 夫	重力波検出器 TAMA300 における高出力レーザーの周波数及び強度安定化システムの研究
〃	〃	橋 場 周 平	クライオ電子顕微鏡によるカエル骨格筋の太いフィラメントの構造研究
〃	〃	羽 柴 次 郎	幾何学と $N = 2$ 超対称ゲージ理論
〃	〃	羽 原 秀 太	マイクロ波分光によるイオウを含むフリーラジカルの分子構造の研究
〃	〃	浜 元 信 州	強磁性クラスターを用いた Stern-Gerlach 実験の解析について
〃	〃	原 祐 次	q -頂点作用素による可解格子模型と変形ビラソロ代数の研究
〃	〃	馬 場 浩太郎	ショウジョウバエのオス生殖器の形成と寿命に関わる Btk/Dsrc29A 遺伝子の解析
〃	〃	廣 田 朋 也	暗黒星雲コアにおける HCN, HNC とその同位体種の観測的研究
〃	〃	發 知 英 明	(π^+, K^+) 反応を用いた中重 A ハイパー核の分光学的研究
〃	〃	細 道 和 夫	AdS_3 空間上の弦理論と境界上の CFT
〃	〃	堀 正 樹	異常長寿命反陽子ヘリウム原子のカスケード過程
〃	〃	前 野 忠 嗣	宇宙反陽子線スペクトラムの精密測定
〃	〃	間 明 宏 充	遠方天体の二点統計量に対する宇宙論赤方偏移効果
〃	〃	松 浦 能 行	筋収縮制御に影響を及ぼす変異アクチン X 線結晶構造解析
〃	〃	水 野 恒 史	近傍渦巻き銀河中の大光度コンパクト X 線源の「あすか」による観測的研究
〃	〃	山 口 尚 秀	微小ジョセフソン接合 2 次元配列の電気伝導
〃	〃	山 口 誠	Eu^{3+} 含有結晶における不均一広がりの光 - rf 二重共鳴による研究
〃	〃	山 本 常 夏	活動銀河中心核からの TeV ガンマ線発生機構の研究
〃	〃	吉 浜 知 之	NaV_2O_5 中性子磁気散乱研究
〃	〃	吉 本 芳 英	Si(001), Ge(001) 及び Ge/si(001) 表面の温度と被覆度に依存する構造の第一原理計算による研究
〃	〃	依 田 隆 夫	ヤギ α -ラクトアルブミンのフォールディングの実験とシミュレーションによる研究
〃	〃	渡 邊 曜 大	力学系の安定性解析のための幾何学的方法とその流体力学への応用
〃	〃	肖 美 琴	Relativistic Heavy Ion Collider(RHIC) に於ける偏極陽子ビームのスピンダイナミクス
〃	天 文 学	西 田 伸 二	マゼラン雲球状星団の AGB 星
〃	〃	中 島 浩 二	すばる補償光学系データ解析のためのリチャードソン・ルーシー・アルゴリズムに基づく適正サンプリング画像復元処理法
〃	〃	小宮山 裕	かみのけ座銀河団の矮小銀河の測光的性質
〃	〃	田 沼 俊 一	星間磁場の磁気リコネクションの電磁流体数値シミュレーション
〃	〃	筒 井 芳 典	中間赤方偏移の銀河における分子ガスと CO 輝線タリーフィッシャー関係の観測的研究
〃	〃	徳 久 章	高エネルギー宇宙線の電弱・ハドロン過程
〃	〃	中 里 直 人	銀河系と球状星団の形成と化学力学進化
〃	〃	永 田 伸 一	「ようこう」、SOHO 衛星による太陽コロナの多温度構造に関する研究
〃	〃	松 本 千 穂	「あすか」衛星の観測によるセイファート 1 型銀河「MCG -6 -30-15」の鉄輝線の特性に関する研究
〃	〃	八 代 誠 司	太陽コロナにおける活動領域の進化

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	地球惑星物理学	三 谷 典 子	高速度衝突における固体中の衝撃波減衰の数値シミュレーション
〃	〃	岡 英太郎	東シナ海における黒潮の水塊と力学構造の変動特性
〃	〃	鈴 木 真 一	移動する台風に対する海洋の応答機構に関する研究
〃	〃	青 地 秀 雄	3次元非平面断層系における動的破壊伝播の理論的研究
〃	〃	荒 木 英一郎	深海での広帯域地震観測にみられる地震動・ノイズの地球物理学的特性に関する研究
〃	〃	石 峯 康 浩	火山噴煙のダイナミクスに関する数値研究
〃	〃	宇田川 真 之	点過程としてみた火成活動の統計および確率論的研究
〃	〃	櫻 庭 中	回転する流体球における非線型マグネットコンベクションと地球ダイナモに関する数値計算を用いた研究
〃	〃	関 華奈子	地球磁気圏におけるロープ/マントルプラズマのダイナミクス及び起源に関する研究
〃	〃	三 部 賢 治	高圧下における水の特性とその地球マントルへの応用
〃	〃	山 田 知 朗	南西インド洋海嶺ジョーダンマウンテンズの地殻構造と地震活動
〃	〃	吉 田 信 介	LUNAR-A ペネトレータの熱モデルの実験的決定と月熱流量計測への適用
〃	〃	渡 部 雅 浩	中緯度大気海洋系に見られる10年規模変動のメカニズムに関する研究
〃	化学	趙 庚 娥	有機薄膜成長における成長温度と目的物質のパルス分子ビーム使用の影響
〃	〃	秋 根 茂 久	配座の固定された新規な架橋カリックス〔6〕アレーンの合成、構造、および応用
〃	〃	内 山 裕 士	酸化物超伝導体における表面・バルクの光電子分光の研究
〃	〃	遠 藤 理	銀単結晶電極表面上のハロゲン特異吸着
〃	〃	金 谷 有 剛	LIF法を用いたOH/HO ₂ ラジカル測定装置の開発と海洋境界における化学過程の観測研究
〃	〃	小 林 好 真	細胞膜作動性生理活性物質の膜表裏分布に関する NMR 観測
〃	〃	長 沼 健 二	5 配位ケイ素を有する小員環化合物の合成と反応
〃	〃	平 井 敦	有機亜鉛試薬を用いた立体選択的反応についての実験的および理論的検討
〃	〃	松 井 文 彦	シリコン表面の炭化および酸化初期過程における分子性吸着種の挙動
〃	〃	村 田 元	走査型トンネル顕微鏡像の分光学的研究
〃	〃	山 田 浩 之	パナジウムブロンズ AxV ₂ O ₅ (A = Na, Ag, Li, Cu) の合成・単結晶育成及び物性
〃	〃	山 根 基	アシル金属化合物を活用する有機合成反応の開発
〃	〃	脇 田 啓 二	速度論的に安定化された含ケイ素芳香族化合物の合成および性質に関する研究
〃	〃	佐 甲 徳 栄	多原子分子における振動の代数論的構造
〃	生物化学	笹 村 剛 司	ショウジョウバエ神経系の形成にかかわる遺伝子 solo の同定と機能
〃	〃	二 宮 啓 子	チアゾール誘導体による DNA の光切断
〃	〃	岩 崎 わかな	マルチドメインの EF-hand タンパク質、40kDa カルシウム結合タンパク質の X 線結晶構造解析
〃	〃	松 山 晃 久	分裂酵母の接合および減数分裂に関わる ste7 遺伝子の解析
〃	〃	相 原 秀 樹	NMR を用いた DNA 相同組換え反応機構の解析
〃	〃	阿 部 亮 敦	アクチンの N 末端アセチル化の機能に関する研究
〃	〃	石 黒 啓一郎	V (D) J 組換えにおける RAG-RSS 相互作用の解析
〃	〃	伊集院 壮	新規ホスファチジルイノシトールポリリン酸ホスファターゼの単離
〃	〃	宇 野 麻紀子	バクテリアペプチド鎖解離因子のコドン識別に関わる機能ドメイン解析

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	生物化学	辛 島 健	線虫 <i>C.elegans</i> の卵形成時の減数分裂に必須は <i>daz-1</i> 遺伝子の解析
〃	〃	金 仁 実	ショウジョウバエ <i>Sex-lethal</i> タンパク質と一本鎖 RNA の複合体の NMR 解析
〃	〃	小 柴 生 造	細胞内情報伝達を制御する機能ドメインの NMR 構造解析
〃	〃	佐 藤 純	ショウジョウバエ成虫背中における位置情報とパターン形成
〃	〃	鈴 木 崇 之	ショウジョウバエの幼虫視神経細胞の分化に関わる Hedgehog シグナルの解析
〃	〃	田 村 徳 子	立体構造からみた <i>Sex-lethal</i> タンパク質による transformer mRNA 前駆体の認識機構
〃	〃	仲 村 厚 志	ニワトリ松果体光受容タンパク質ピノプシンの機能解析
〃	〃	羽毛田 聡 子	ショウジョウバエの筋肉蛋白質 Kettin をコードする遺伝子の単離および機能解析
〃	〃	林 令 子	免疫グロブリン κ 遺伝子 V-J 組み換えの制御機構
〃	〃	松 尾 亮 太	海馬長期増強により発現調節される遺伝子群のカタログ化
〃	生物科学	中 村 正 展	伸長成長に欠損のあるシロイヌナズナの新奇突然変異体の単離と解析
〃	〃	野 澤 彰	緑葉におけるアスパラギンとグルタミンの合成に関与する遺伝子の発現とその生理学的意義
〃	〃	長谷川 徹	沿岸表層域のプラクトン群集による溶存態有機窒素の生成機構の解析
〃	〃	阿 部 秀 樹	GnRH ニューロンにおけるペースメーカー活動の生成・修飾メカニズム
〃	〃	大 村 嘉 人	日本および台湾産サルオガセ属（地衣類）の分類学的研究
〃	〃	栗 山 英 夫	管状要素形成における液胞崩壊プログラムの解析
〃	〃	嶋 永 元 裕	相模湾漸深海底定点における小型深海底生生物群集の個体数・垂直分布・繁殖活性の季節変動、および種の多様性に関する研究
〃	〃	竹 内 雅 宜	植物細胞における小胞輸送制御系の構築—優性阻害型変異 <i>Sarl</i> GTPase を用いたアプローチ
〃	〃	福 田 留 美	海洋におけるタンパク態有機物の微生物分解特性
〃	〃	本 郷 裕 一	ウンカ酵母様共生体による窒素再利用と共生の起源に関する研究
〃	〃	泉 寛 子	カタユウレイボヤ・ユウレイボヤ精子の運動活性化を制御するイオンチャンネルの解析
〃	〃	稲 田 のりこ	イネ葉に於ける老化プログラムの開始と進行の機構に関する三次元的解析
〃	〃	奥 野 敦 朗	オカダンゴムシの造雄腺ホルモンの構造と発現解析
〃	〃	笠 井 文 生	ヒト第 2 番染色体における祖先型染色体融合部位の解析
〃	〃	駒 木 加奈子	アブラムシ細胞内共生細菌ゲノムの性状に関する分子細胞生物学的研究
〃	〃	佐々木 研	出芽酵母 <i>TOMI</i> と相互作用する <i>KRR1</i> 遺伝子の分子生物学的研究
〃	〃	高 橋 秀 和	カイコのアロメア反復配列を標的とするレトロトランスポゾンの発現制御機構
〃	〃	武 内 純 子	出芽酵母 26S プロテアソームの構造と機能の研究
〃	〃	中 鉢 淳	アブラムシ細胞内共生系における宿主—共生体間相互作用の研究
〃	〃	長 野 美千代	アフリカツメガエル初期胚における転写抑制因子 <i>Dr1(NC2 β)</i> のクローニングおよび機能解析
〃	〃	西 垣 玲 子	紫外線誘発ピリミジン二量体によるアポトーシスとカスパーゼの活性化
〃	〃	西 山 智 明	ヒメツリガネゴケ <i>Physcomitrella patens</i> におけるシャトルミュータジェネシスによる遺伝子タギング系の開発
〃	〃	坂 内 博 子	運動中の鞭毛における微小管滑り運動の Ca^{2+} による制御機構
〃	〃	肥 田 宗 友	カンクイザル cDNA ライブラリーの作製と比較解析
〃	〃	前 川 清 人	オオゴキブリ類の分子系統進化学および生物地理学的研究
〃	地 質 学	大 野 希 一	降下火砕堆積物の解析から導かれる火山噴火のダイミクスと破砕—Pinatubo 1991 年噴火への応用

種 別	専 攻	申 請 者 名	論 文 題 目
課程博士	地 質 学	吉 田 勝 彦	仮想的生物群集における多様性変動の数値実験
〃	〃	池 田 進	低メルト分率状態にある火成岩石での組織形成に関する実験的研究
〃	〃	林 睦 子	三波川変成作用の温度圧力経路の研究
〃	〃	栗 谷 豪	マグマ溜まり熱物質進化：火山噴出物からの微分的情報による制約
〃	鉱 物 学	大 石 徹	珪化木の分類と成因について
〃	〃	宇都宮 聡	始生代における地球表層の条件－水－岩石－大気反応による推定
〃	地 理 学	青 木 賢 人	日本列島中部山岳地域における第四紀末期の水河地形発達史
〃	〃	何 宏 林	チベット高原南東縁部の第四紀の地殻変動に関する研究

